

定期報告（ウルグアイ内政・外交：2017年10月）

【内政】

1 トランスジェンダー議員の誕生

10日、ミッシェル・スアレス代理議員（共産党）がマルコス・カランプラ上院議員（共産党）の代理として上院議員に就任し、ウルグアイ初のトランスジェンダー議員が誕生した。スアレス代理議員は33才、弁護士及び性的マイノリティー（LGBT）の権利保護を推進する活動家であり、2013年に成立した同性婚を認める婚姻平等法案の作成及び推進に携わった。スアレス代理議員は、同じく作成に関わり現在、国民・開発・包摂委員会で審議中のトランスジェンダー関連法案を推進するべく代理議員として一時的にカランプラ上院議員と交代し議会での審議に参加する旨説明した。ウルグアイでは代理議員制度により、議会選挙時に各議員の代理議員も同時に選出し、何らかの理由で議員が議会を欠席する場合は代理議員が代わって審議及び投票を行う。

2 女性クオータ法の可決

18日、大統領、議会、県知事及び県議会選挙を含む公職選挙において、各党が作成する候補者リストの3分の1が女性であることを義務づける女性クオータ法（Ley de cuotas）が議会で可決された。同様の法律が2014年大統領・議会選挙でも適用されたが、前回選挙限りの時限立法であったため、今回の可決により、クオータ制が2019年10月に行われる次回大統領選挙及び今後の公職選挙において無期限で適用されることが決定した。

3 非感染性疾患に関するWHO国際会議の開催

18日～20日、非感染性疾患（NCDs）に関するWHO国際会議がモンテビデオで開催され、マクリ亜大統領、バチェレ智大統領等の各国元首、閣僚、関係機関の代表、専門家など500名が94ヶ国から参加した。医師でもあるバスケス大統領は、NCDsの主要疾患である循環器疾患、慢性呼吸器疾患、癌、糖尿病の原因には、喫煙、飲酒、不健康な食事、運動不足が関連していると述べ、反タバコ政策等の重要性を強調した。「政府はビジネスに反対するのではなく、人々の健康を度外視して利益を追求する産業に反対する」と述べ、世界のNCDsによる死者数は戦死者数をはるかに上回ると警告を鳴らした。

4 バスコウ・ソリアノ県知事の汚職問題

26日、与党FAは、野党第一党の国民党に所属するアグスティン・バスコウ・ソリアノ県知事を公私混同による罪で刑事告発した。バスコウ県知事は、同県庁の車両を自身が経営するガソリンスタンドで給油させていた等の汚職を追求されている。国民党にはバスコウ県知事を擁護する派閥が存在する一方、同県知事の辞職を望む声もあり、同党内部に亀裂が生じている。

5 ルステンベルグ厚生省次官の辞任

27日、ルステンベルグ厚生省次官が辞任を表明し、今後は下院議員として幼児ケアに関わる法的整備に取り組むと述べた。後任には、ホルヘ・キアン厚生省総局長が就任した。

6 次期大統領選投票動向に関する世論調査結果

10月に行われた主要世論調査機関による次期大統領選挙（2019年10月）の投票動向調査結果において、FAの支持率が前回調査と比べ改善すると共に、引き続きFAと国民党が30%前後の支持率を得て拮抗している。現政権に対する評価も前回と比べ上昇した。

(1) 「今週の日曜日に（C i f r a社は「今日」）選挙が実施されると想定した場合、どの政党に投票するか」との質問に対する結果は次のとおり。

C i f r a社	E q u i p o s社	O p c i o n社	R a d a r社
FA：31%	FA：34%	国民党：33%	FA：29%
国民党：26%	国民党：31%	FA：31%	国民党：27%
コロラド党：6%	コロラド党：8%	コロラド党：8%	コロラド党：7%
人々の党：3%	独立党：2%	独立党：4%	人々の党：3%
独立党：2%	人々の党：1%	人々の党：4%	独立党：2%
分からない：32%	人民同盟：1%	人民同盟：1%	人民同盟及びその他政党：2%
	分からない：18%	分からない：7%	分からない・未回答：15%
	白票・棄権：5%	白票・棄権：13%	白票・棄権：14%

(2) 人気が高い政治家は次の通り。

E q u i p o s社

ア ムヒカ上院議員（FA）：51%（親近感を感じる），37%（嫌悪感を感じる）

イ バスケス大統領（FA）：46%，35%

ウ マルティネス・モンテビデオ県知事（FA）：34%，25%

エ ラカジェ・ポウ上院議員（国民党）：33%，52%

エ アストリ経済財務大臣（FA）：25%，51%

オ ララニャガ上院議員（国民党）：19%，56%

カ ノビック氏（人々の党）：11%，47%

O p c i o n社（有力候補者リストの中からの選択方式）

ア ラカジェ・ポウ上院議員（国民党）：23%

イ ムヒカ上院議員（FA）：19%

ウ マルティネス・モンテビデオ県知事（FA）：12%

エ ララニャガ上院議員（国民党）：10%

オ ノビック氏（人々の党）：6%

カ アストリ経済財務大臣（FA）：4%

キ アモリン・バジェ（コロラド党）：3%

(3) 「バスケス大統領の施政を評価するか」との問いに対する回答結果。

C i f r a社	E q u i p o s社
評価する：36%	評価する：34%
評価しない：44%	評価しない：34%
	どちらとも言えない：29%
	分からない：3%

【外交】

1 2030年サッカーW杯3ヶ国共同立候補の正式表明

4日、バスケス大統領はマクリ亜大統領及びカルテス・パラグアイ大統領と共にFIFAに対して2030年サッカーW杯への3ヶ国共同立候補を正式表明した。バスケス大統領は、第1回W杯（1930年）はウルグアイで開催され、記念すべき100周年となる2030年W杯の開催はラ・プラタ川流域の同3ヶ国で行われるべきであると述べた。ウルグアイと亜は、2006年に2030年W杯共同立候補を目指す二国間委員会を設置し準備を進めてきた。当初、ウルグアイはパラグアイの参加に難色を示したと報じられたが、バスケス大統領はこれを否定。2030年W杯には48チームが参加を予定しており、6～8会場が亜、2～3会場がそれぞれウルグ

アイとパラグアイに振り分けられることになる。

2 国連世界観光機関（UNWTO）現・次期事務局長のウルグアイ訪問

3日、ポロリカシュビリ国連世界観光機関（UNWTO）次期事務局長（任期：2018年～2021年）がウルグアイを訪問し、バスケス大統領と会談したほか、ウルグアイ有数の避暑地プンタ・デル・エステ及び観光関連施設等を視察した。12日には、リファイ現UNWTO事務局長がウルグアイを訪問しバスケス大統領と会談した後、ケチチアン観光大臣と共に隣国パラグアイで開催された国際観光フェアに参加した。

3 ニン・ノボア外相とレグネール・スウェーデン子供・高齢者・男女平等相の会談

5日、ニン・ノボア外相は、ウルグアイを訪問中のレグネール・スウェーデン子供・高齢者・男女平等相と会談し、両国が様々な国際機関、平和維持に関する貢献、気候変動、持続可能な開発目標等における原則及び価値を共有していると述べた。両者は、2016年～2020年二国間ロードマップの枠組みにおいて、子供の権利及び男女平等に関する協力を行うことに合意する覚書に署名した。

4 ニン・ノボア外相の英国訪問

9日、ニン・ノボア外相は英国を訪問し、ジョンソン外相、ファロン国防相、ハンズ投資・貿易担当閣外相とそれぞれ会談し、二国間の政治、貿易、文化、協力、国防に関して意見交換し、両国の歴史的友好関係、協力、相互尊重、また、民主主義、人権の尊重、多国間主義、環境保全といった共通の基本原則・価値を強調した。EU離脱に伴う英国の外交政策の変更及びそれに伴うメルコスール加盟国を主とする南米地域への好機が強調された。双方は国際社会が直面する課題について一致し、大半の議題に関し共通の立場を取る国連安保理の作業における協力に満足の内意を表した。

5 米州人権委員会の開催

23日～27日、第165回米州人権委員会がモンテビデオで開催され、ニン・ノボア外相は開会演説でウルグアイの国際人権法擁護及び推進に対する強い決意を述べた。同委員会に出席するためウルグアイを訪問したゼイド国連人権高等弁務官は、バスケス大統領及びニン・ノボア外相と会談し、地域・国際問題における広範なテーマについて意見交換した。また、ゼイド国連人権高等弁務官は、トポランスキー副大統領をはじめとする議員団と会談し、ウルグアイにおける未成年犯罪者の裁判前勾留制度が成人より厳しいことに懸念を表し、本件に関する技術協力を申し出た。ウルグアイでは、未成年者法（CNA）改正により未成年者の勾留義務期間が最大90日間から150日間に延長された一方、11月1日に発効する新刑事訴訟法では、成人の勾留は必ずしも義務ではなく、条件を満たした場合のみ最大1年とされ、勾留が義務づけられる未成年犯罪者への措置が対成人よりも厳しくなるケースが生じうるという矛盾が問題視されている。

6 ブシュイッチ・クロアチア外務次官のウルグアイ訪問

25日、ベルガミノ外務次官は、ウルグアイを訪問中のブシュイッチ・クロアチア外務次官と会談し、二国間関係、米州及び欧州における主要な関心事項、多国間における協力について意見交換した。双方は、良好な二国間関係を更に発展させ、政治、経済、貿易、領事協力を中心とする多方面で更なる関係強化を図る意思を表明した。

7 ウルグアイ・アルゼンチン共同軍事演習

25日～28日、ウルグアイとアルゼンチンは、両国の間を流れるウルグアイ川に400名を

配置し、監視、航行遮断、保護区域における違法行為の取り締まり等の共同軍事演習を行った。同演習は、2018年12月にアルゼンチンで開催予定のG20に向けた合同訓練の一環として行われ、ウルグアイ共和国マルドナード艦艇、コロニア艦艇、パイサンドゥ艦艇、航空機及びヘリコプター、海軍狙撃部隊等が参加し、ウルグアイ川に隣接する保護区域に薬物密売テロ組織がいると想定し、4日間に及ぶ占領地域奪還作戦の訓練が展開された。

【要人往来】

○往訪

- 4日、バスケス大統領の訪亜
- 9日、ニン・ノボア外相の訪英
- 23日～26日、コッセ工業エネルギー鉱業相の訪米

○来訪

- 4日～7日、レグネール・スウェーデン子供・高齢者・男女平等相
- 18日、マクリ亜大統領、バチエレ智大統領、カルテス・パラグアイ大統領、ムガベ・ジンバブエ大統領、サルマ・モロッコ王妃、アダノムWHO事務局長、趙国際電気通信連合（ITU）事務局長、マッティラ・フィンランド社会保健相、スクボルツォア露保健相、レムス亜保健相
- 23日～27日、ゼイド国連人権高等弁務官
- 25日、ブシュイッチ・クロアチア外務次官

(了)